

オンラインフォーラム
「原発回帰GX法」が意味すること
～今後に向けて
2023/6/20

1. GX法成立でみえてきたものとは？
2. 国会審議で明らかになったこと、明らかにならなかったこと
3. 今後何をしていくべきか

- ・新しい資本主義実現会議 内閣官房HP
- ・デジタル田園都市国家構想実現会議 内閣官房HP
- ・デジタル臨時行政調査会 デジタル庁HP
- ・デジタル社会推進会議 デジタル庁HP
- ・経済安全保障推進会議 内閣官房HP
- ・全世代型社会保障構築会議 内閣官房HP
- ・公的評価価格検討委員会 内閣官房HP
- ・税制調査会 内閣府HP
- ・経済財政諮問会議 内閣府HP
- ・教育未来創造会議 内閣官房HP
- ・宇宙開発戦略本部 内閣府HP
- ・GX実行会議 内閣官房HP
- ・総合科学技術・イノベーション会議 内閣府HP
- ・国家戦略特別区域諮問会議 内閣府HP
- ・こども政策の強化に関する関係府省会議 内閣官房HP

1. GX法成立でみえてきたものとは？

■東ねてはいけない。

議員も議員スタッフも報道も5法案同時には追えない

→国民の知る権利を奪い、国会の機能を奪う

→与党を利する政治的安定性をもたらす

■なぜこんなことに？

1990年代後半： 「行政の隠みの」 審議会行政への激しい批判

https://www.kantei.go.jp/jp/headline/seisaku_kisida/newcapitalism.html

= 密室、天下りOBが公益法人幹部として出席、政官財の利益を維持増進する構図。

→情報公開法成立、審議会・行政・公益法人改革

→問題の構造が学会と水面下に。行政とPR会社と報道との関係性批判が不十分

今： 国民不在の「官邸」行政 腐った権力

→傍聴不可、フリーランスジャーナリスト取材不可、官邸記者も冒頭のみ

→GX実行会議（官邸の仮面をつけた経産省）昨年12月に5回審議。

位置付け：岸田内閣「新しい資本主義」の一つ = 「古い計画経済」

→GX経済移行債の発行に関する関係府省連絡会議（2023年6月9日）

縦割りを排して高級官僚が密室でやりたい放題

= 官僚が隠れ蓑から表舞台へ：官邸の主役に

岸田総理演説後の取組

■ 岸田総理演説を受け、グリーンエネルギー戦略中間整理、GX実行に向けた基本方針等を取りまとめ。さらに、GX実現に向け必要となるGX推進法・GX電源法案を第211回通常国会に提出・成立。

GXの出発点は国民から遠く離れたロンドン。

2022年

● 岸田総理ギルドホール演説（5月）：官民協調により150兆円の投資を実現、「成長志向型カーボンプライシング」

✓ 「経済財政運営と改革の基本方針」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」閣議決定（6月）
➢ 今後10年のロードマップの取りまとめ、GX経済移行債を活用した先行投資支援、「GX実行会議」の設置

✓ 「GX実行会議」等の設置（7月）
➢ 総理を議長とする「GX実行会議」・与党における議論・検討開始

政府・与党・有識者等
による議論・検討

ここで規制庁が規制の虜に

2023年

✓ 「GX実行に向けた基本方針～今後10年を見据えたロードマップ～」とりまとめ（12月22日）
➢ GX実行会議において、これまでの議論の成果を踏まえ、エネルギー安定供給の確保を大前提としたGXの実現のため、今後10年を見据えた取組の方針（ロードマップ）を取りまとめ
→ 2023年2月10日閣議決定

✓ 「GX推進法案」・「GX脱炭素電源法案」提出（第211回通常国会）
➢ GX推進戦略の策定・実行、成長志向型カーボンプライシング構想の実行（GX経済移行債の発行、化石燃料賦課金、特定事業者負担金の導入、GX推進機構の設立、進捗評価と必要な見直し）
➢ 地域と共生した再エネの最大限の導入促進、安全確保を大前提とした原子力の活用等
→ GX推進法・GX電源法成立

出発点 2022年5月5日

ギルドホールにおける岸田総理基調講演

4点目は、グリーン、そしてデジタルへの投資です。ロシアによるウクライナ侵略は、エネルギー安全保障をめぐる環境を一変させました。

喫緊の課題である気候変動問題に加え、世界全体でのエネルギーの脱ロシアに貢献するためにも、再エネに加え、安全を確保した原子炉の有効活用を図ります。既存の原発一基が再稼働すれば、年間100万トンのLNG（液化天然ガス）を世界市場に新規に供給するのと同じ効果があります。

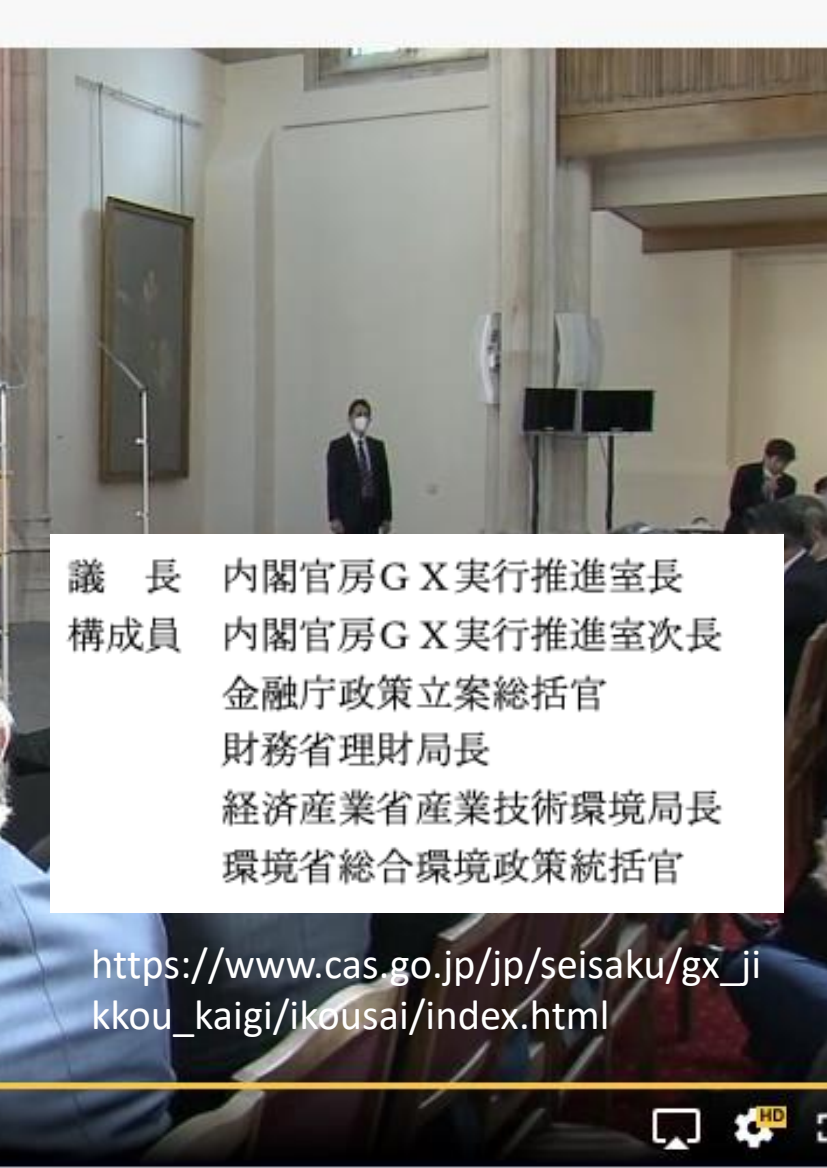
あわせて、長期的な視野を持って、エネルギーの安定供給を確保しながら、2050年カーボンニュートラル、2030年温室効果ガス46パーセント排出削減という国際約束を実現していきます。その目標を達成するため、我が国において、2030年に17兆円、今後10年間で、官民協調により150兆円の新たな関連投資を実現いたします。

我が国には、2,000兆円の金融資産、320兆円の企業内部の現預金があります。巨大な金融潜在力と巨額の投資ニーズをイノベティブな政策イニシアティブにより結び付け、民間企業が先行き不透明のためらっている関連投資を引き出し、中期的な成長戦略の柱としていきます。

150兆円の新たな関連投資を引き出すため、第一に、企業の予見可能性を高めつつ、一方で、成長やイノベーションを促進するような成長志向型カーボンプライシング

https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/statement/2022/0505kichokoen.htm

着地点の一つ 2023年6月9日
GX経済移行債の発行に関する関係府省連絡会



議長	内閣官房GX実行推進室長
構成員	内閣官房GX実行推進室次長
	金融庁政策立案総括官
	財務省理財局長
	経済産業省産業技術環境局長
	環境省総合環境政策統括官

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gx_jikkou_kaigi/ikousai/index.html

2.国会審議で明らかになったこと、明らかにならなかったこと

■明らかになったこと

- ・「規制の虜」 回帰した原子力規制委員会、規制庁
- ・電気事業法第27条の29の2第4項第5号（原子炉の運転期間）の危険性
20年超の申請は理由と期間の合計を添付
（イ）基準適合審査の停止期間（ロ）行政処分で停止したが、停止する必要がなかった期間（ハ）行政指導による停止期間（ニ）仮処分命令で停止したが、命令取消し等により、停止する必要がなかった期間（ホ）他の法令等、予見し難い事由に対応した停止期間 →企業利益を優先し、老朽原発を徹底的に使い倒すつもり

■明らかにならなかったこと

- ・電力自由化への逆行であること、発電分離は未完であること
→経過措置で保護されている旧一般電力会社
→不利なままの再エネ
- ・延長認可制度でさえズサンで、今後はそれを踏襲するものになること
- ・岸田「新しい資本主義」＝「古い計画経済」であること、その弊害
- ・政策形成過程手法の一部（GX実行会議を作ったのは、原子力規制委員会と原子力委員会取り込み、束ねるためだけではないか？）

3. 今後何を（私の場合、発信）していくべきか （知る・知られることによる是正力を信じて）

■ 電力自由化の検証 ←GX前に必要だったこと

- 経過措置で保護されている旧一般電力会社、不利なままの再エネ
- 経産省の「電力・ガス取引監視等委員会」と「電力広域的運営推進機関」
= 経済合理性のない原子力と核燃料サイクルの退場

■ 老朽原発の規制が緩和されようとしていること

- 原子力規制委員会「高経年化した発電用原子炉の安全規制に関する検討チーム」
1000万点の部品／地震大国／バックフィットする覚悟の欠如

原子力エネルギー協議会（ATENA）は中性子照射脆化評価の規制緩和を陳情

- ① 試験片の数量は有限で、原子炉は運転に伴い中性子照射脆化が進行することを踏まえてと要望→規制庁は照射量に応じた監視試験計画を示せばよい案を提示
- ② 沸騰水型原子炉（BWR）は「加圧熱衝撃による原子炉圧力容器が損傷するおそれがない」→規制庁は審査基準案で「加圧熱衝撃評価については、加圧水型原子炉（PWR）のみに適用するように見直す。

- 電気事業法第27条の29の2 第4項第5号（原子炉の運転期間）

禍根を残す司法への侵害

■ 見えにくい敵の監視

- GX経済移行債、GX推進機構
- ステークホルダーが参加できる制度を阻むもの

まとめ（プラント状況を考慮した監視試験の計画・運用の適正化）

11

- RPVは、運転に伴い中性子の照射を受けて徐々に材料の靱性（粘り強さ）が低下するため、経年変化の進行程度を把握して、計画的に健全性を確認することにより管理していくことが重要である。
- 原子炉の設計に応じた監視試験カプセル数を装荷しているが、数量は有限であること、RPVは運転に伴い中性子の照射を受けて、徐々に経年変化が進行していくことを踏まえ、科学的・技術的な観点に基づく規制・ガイドが整備されることをATENAとして要望する。
 - ✓ 定格負荷相当年数（EFPY）に基づき適切な照射量の間隔で監視試験を計画・実施。
 - ✓ 原子炉の設計（PWR/BWRの照射量の差など）に応じた監視試験の計画・運用。
- プラント状況を考慮した監視試験の計画・運用の適正化を図ることにより、監視試験データの充実化・蓄積にもつながり、RPVの健全性を評価する際の信頼性向上さらにはプラントの安全性向上にも資すると考える。